

●2020年度特別調査委員会一覧

<p>福祉起点型共生コミュニティと新しい地域拠点計画のあり方検討特別調査委員会</p> <p>委員長：山田あすか</p> <p>2019.4～2021.3</p>	<p>人口減少を伴う少子・超高齢社会にある我が国では、大都市と地方の人口偏倚に起因する医療・福祉・生活・就労基盤の脆弱性を是正し社会の持続性を高める必要がある。このため、①多様な事例の横断的整理による福祉起点型共生コミュニティの概念整理と、これに基づく②新しい地域拠点計画のあり方に関する検討、を目的とする。</p>
<p>AIの利活用に関する特別調査委員会</p> <p>委員長：野城智也</p> <p>2019.4～2021.3</p>	<p>建築学はこれまで、人工物である建築物と人間とのインタラクションの間に生じる事象を取り扱いながら知を蓄積してきた。今後、AIが建築物の安全性や人々のQOL：quality of lifeの向上に資するため、建築学がどのように取り組んでいくべきかに関する指針を得ることを目的とする。</p>
<p>SDGs対応推進特別調査委員会</p> <p>委員長：</p> <p>2020.4～2022.3</p>	<p>2019年度にSDGs対応タスクフォースを設置し各委員会にアンケート調査を実施し本学会のあり方について検討を開始した。これらをSDGsの17目標・169項目に照らして再検討し、その行動指針を明確化し、分かりやすく会員に示し、本会が一丸となって取り組めるよう検討を行うことを目的とする。</p>
<p>建築のスクラップアンドビルドと保存・活用に関する特別調査委員会</p> <p>委員長：藤井俊二</p> <p>2020.4～2022.3</p>	<p>スクラップアンドビルドに偏りがちな現在の建築・都市再生から、保存・活用によるストック活用とのバランスを回復し、サステナブル社会の形成、建築文化の継承、良質な都市環境の維持をはかることを目指す。そのため、建築の専門各分野が協同し、社会科学や経済が連携して、市民との価値観の共有化も視野に入れて、現状の調査と有効な施策についての調査研究を行うことを目的とする。</p>